

学校ダイアリー



【沿革】 1875年に民家を借りて創立した。1958年、唐津市立大良中が敷地内に併設されたが、2013年に閉校となり、同市立高峰中へ統合された。敷地内は小学校のみとなり、現在、3、4年生と5、6年生が複式学級で学んでいる。唐津市大良526の1。

こんな学校



【校区】 標高120mから250mの丘陵地に7つの集落が点在する。人口は約650人。1958年に旧切木村から分離して唐津市に編入された。山間部で気候が冷涼であることから、キュウリやトマト、

ミカンなどのハウス栽培が盛んで、養鶏や肉用牛などの畜産業も行われている。かつては和紙づくりが行われ、その原料となるコウゾが自生している。梨川内地区には、古唐津で知られる小古窯跡がある。

大良小の児童たちは今年度、「あいさつ日本一」を目指している。計画委員たちが、あいさつが良かった児童を表彰するなどの取り組みを進めている。

「あなたは、遠くから声が響くぐらいあいさつをしました」。今月1日、計画委員の松本優人君(11)らがあいさつが上手な児童に手作りの賞状を渡した。松本君は「遠くにいる目も合えばあいさつできるようになった」と取り組みの効果

「あいさつ日本一」取り組む
内気な児童も積極性増す



あいさつ優秀者として表彰された児童たち



後川内子供浮立を披露する子どもたち(後川内子供クラブ提供)

地元子供クラブ 民俗芸能を継承
後川内地区 大良小校区の後川内地区では、地元の子供クラブが、民俗芸能「後川内子供浮立」を継承している。同地区では雨ごいの踊りとして、約150年前から山の神に奉納していたとさ

大木校長は「内気な児童もあいさつ運動を通じて積極性が増し、自分の主張をはっきり言えるようになってきた」と評価している。

唐津市立大良小学校 (大木貴博校長、児童31人)

ポニーとふれ合い 心育む



ポニーの世話をする吉田さん(左から2人目)と児童たち

大良小では、児童が小型の馬・ポニーとのふれ合いを通じて、命の大切さを学び、思いやりの心を育んでいる。牧場を運営する吉田宇さん(73)が、同校教諭時代に始めた「ポニー教室」は今年で22年目を迎えた。(中西瑛)

週2回教室 牧場で乗馬や餌やり

今月上旬、大良小の校舎が見える牧場。児童たちがポニーの周りに集まり、首筋をなでたり、餌をあげたりしていた。週2回、放課後学習の一環として、1、3年生が通う。

ポニー教室が始まったのは1994年。モンゴルでの乗馬体験に魅了された吉田さんが山林を自費で購入して牧場をつくった。ポニーを最大5頭まで増やし、2003年の退職後も教室を続けている。

これまでポニーの出産が2度あり、当時の児童は乳を飲む様子などを観察し、スケッチした。01年に最初にやってきたポニーが死んだときは、劇や影絵を作つて死を悼んだ。

「まだうまく乗れないけど、走ると風が気持ちいい」。手綱でポニーを操り、牧場を2周した福留一葵君(7)は笑顔を見せた。松本理紗さん(7)は「目がかわいいね」と話しかけ、ポニーにブラシをかけた。

吉田さんは「子どもたちは馬に感情移入して、成長する。教室は生涯続けたい」と目を細めていた。

いろんな友達作って



大良小育友会会長 末竹誠さん 43 1985年卒

私の在学中は、大良中学校が併設されていました。今より児童が少し多く、1学年に10人くらいで全校児童は約80人いました。それでも少人数で、学年関係なくサッカーや野球をしていました。上級生が気さくに誘ってくれました。今でもつきあう一生の友人もできました。良い人間関係が築けたのも、少人数ならではの、思っています。

勉強はおろそかにしがちで、先生からよく怒られていました。指導室に呼ばれたこともあります。

今、次女が大良小6年生です。勉強も大切ですが、いろんな友達を作り、個性を伸ばして、将来の可能性を広げてほしいと思います。(唐津市大良)

◇次回はみやき町立三根西小学校

このページに掲載した写真を実費でお分けます(提供写真と「贈る言葉」の写真は除く)。問い合わせは0962-715-5955か、最寄りの販売店へ。